

これでバッチリ釣れる！

へらエサ マニュアル 徹底解説

Vol.5

両グルテンの 宙・底釣り



つれるエサづくり一筋

マルキュー

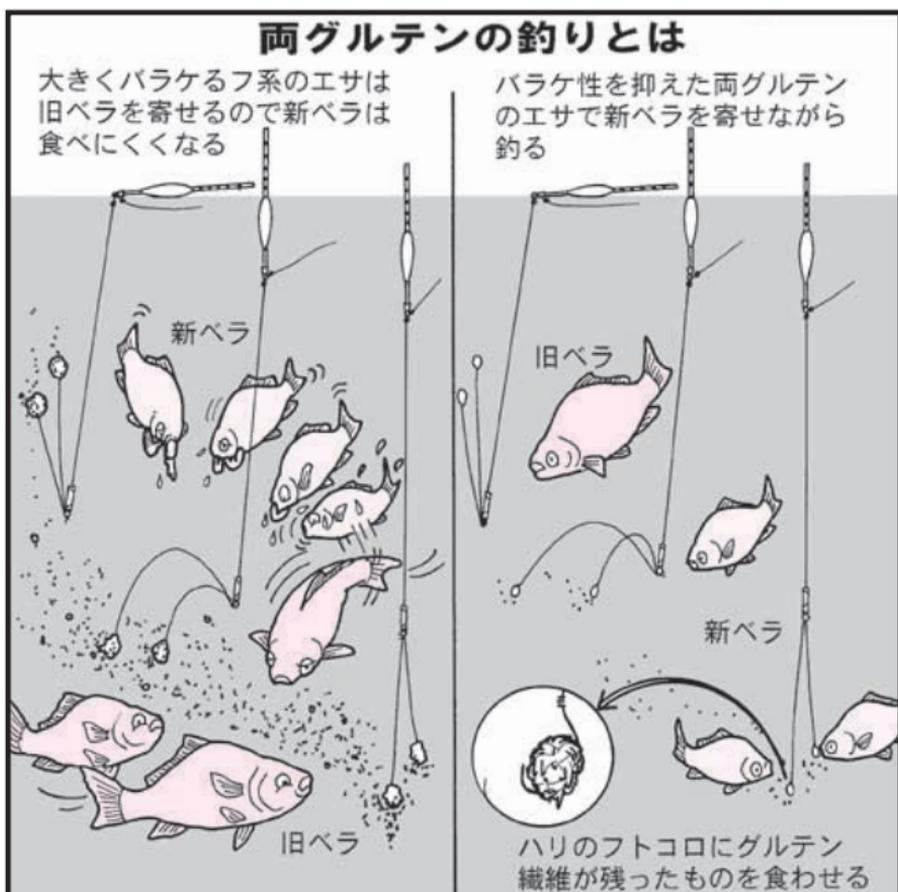
本社 桶川工場 埼玉県桶川市赤堀 2-4 〒363-8509
TEL : (048) 728-0909(代) FAX : (048) 728-3909

<http://www.marukyu.com/>

両グルテンの釣りとは...

秋が深まる10月下旬から11月にかけて、各地の管理釣り場では新べら放流が始まります。白く輝く美しい魚体と強烈な引きを楽しめるのはこの時季ならではのものです。

放流直後から荒食いする新べらを狙うには広範囲にバラける麸系のエサよりも、マッシュの粒子がサラサラとタテに抜ける軽いグルテンエサに実績があります。バラけたマッシュが新べらをタナへ誘い込み、そしてハリのフトコロに残ったグルテン繊維を吸い込ませるとというのがこの釣りの基本です。



宙釣り編

Step.1

セッティングは？

サオ = 15 ~ 18尺

状況によって使い分ける。

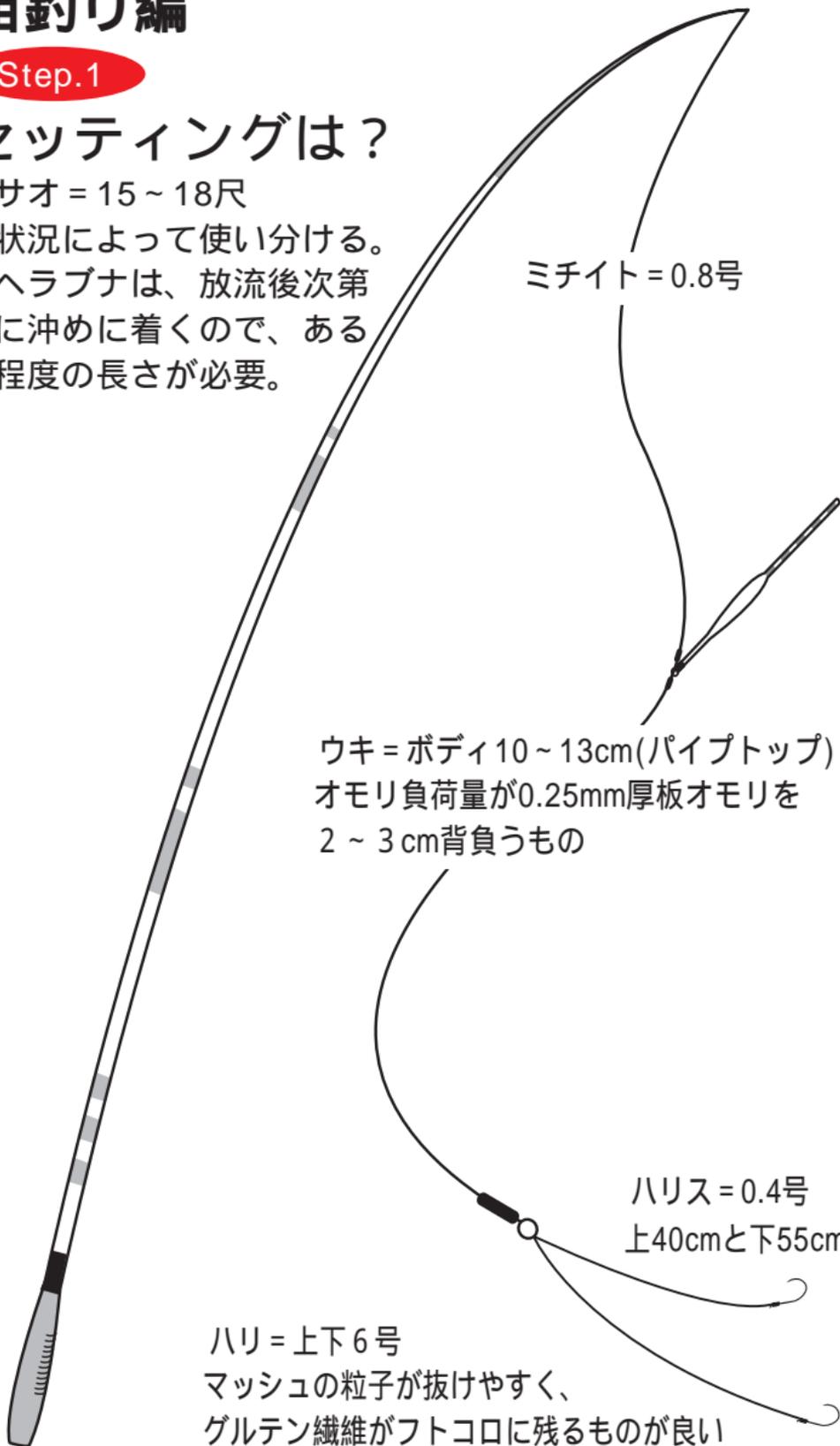
ヘラブナは、放流後次第に沖めに着くので、ある程度の長さが必要。

ミチイト = 0.8号

ウキ = ボディ 10 ~ 13cm (パイプトップ)
オモリ負荷量が 0.25mm 厚板オモリを
2 ~ 3cm 背負うもの

ハリス = 0.4号
上40cmと下55cm

ハリ = 上下6号
マッシュの粒子が抜けやすく、
グルテン繊維がフトコロに残るものが良い



Step.2

釣り方のツボは？

釣り場に放流された新べらは、ただちに群れをつくってヘチの浅場を回遊します。その後、水に慣れるにしたがい養魚場の環境に似た浅場（2 m前後）や人のプレッシャーの少ない沖めに集まるようになります。宙釣りではこの回遊路やタナを狙うというのがセオリーです。釣る場所やタナを間違えば、旧べらだけの釣りになってしまい、会心の釣りはできません。これは各釣り場の形態で変わってきますので、例年の新べらの行動パターンを知ること。これが攻略の第一歩になるわけです。

Step.3

理想的なウキの動きは？

狙うタナに新べらの地合いができると、ウキが立ったところからサワリができるようになります。そこからトップがなじむまでにモゾツ、ムズツと押さえるようなアタリが続くことが理想です。時にはなじむスピードが一瞬早くなるのもアタリなので、細かなウキの動きには注意が必要です。

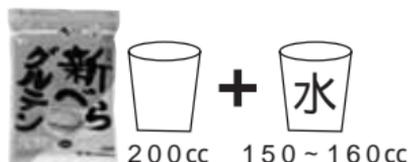


Step.4

新べら放流直後は...

養殖池から移送された新べらは、空腹の状態です。釣りに放流されます。食欲が旺盛な新べらを狙うには、抜きの良いグルテンを硬めに仕上げ、10円玉大に大きくエサ付けします。これを長めのハリスでエサを追わせながら食わせるわけです。

ここではマッシュの抜きの良さが大切なので、なじみ幅が少ない時は手もみを強くするのではなく、エサを大きく付けてなじませることをお勧めします。アタリは落ち込みでムズッ、モゾッと小さく押さえるようなものが多くなるので、細かいウキの動きに注意が必要です。



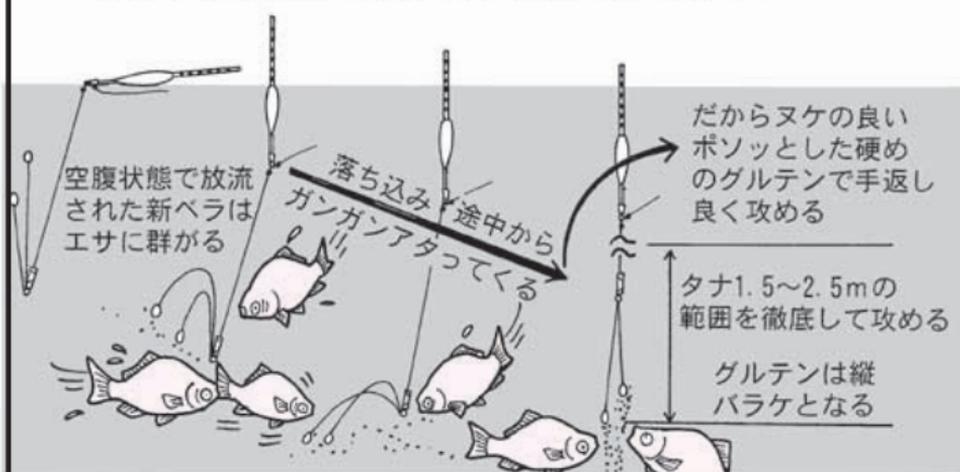
または、



How to make

抜きの良い「新べらグルテン」と抜きの良さに、適度な比重のある「新べらグルテン底」を使います。「新べらグルテン」200cc + 水150 ~ 160ccでカタボソに仕上げます。なじみ幅が少ない時は「新べらグルテン」100cc + 「新べらグルテン底」100cc + 水180ccです。

新べら放流直後の釣り方（宙釣り）



Step.5

新べらが口を使い、
落ち着いたたら...

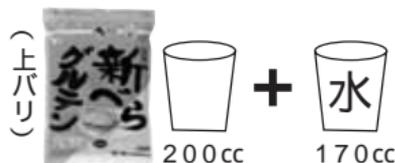
放流直後にあれほど荒食いをした新べらも、何回か釣られると簡単にはエサに飛びつかなくなります。硬くボソツとしたエサではへらがはしゃぐだけでコンスタントに釣るのが難しくなります。このような時にはシットリしたグルテンが効果的。

抜けの良いグルテンだけではエサ持ちが弱いので、グルテン繊維が強いものを2～3割ブレンドしてハリ持ちを良くする、というのがポイントです。あるいは抜けの良いグルテンをバラケエサ代わりに使い、クワセは繊維の強いものをブレンドしてパチンコ玉大にエサ付けをする、変則的な両グルテンの釣りも面白く、効果的です。

両グルテンパターン



セット感覚の両グルテンパターン



How to make

「新べらグルテン」170cc + 「グルテン 21」30cc + 水200ccを両グルテンエサとして使います。セット釣り感覚で釣るのであれば「新べらグルテン」200cc + 水170ccでつくったものをバラケに、クワセは「新べらグルテン」50cc + 「グルテン 21」50cc + 水120ccつくりパチンコ玉大にエサ付けします。

こんなエサを使おう！

グルテン

新べらグルテン



粒子が粗く軽めのボソタッチに仕上がる。ヌケの良さが、寄せ効果も発揮する。

新べらグルテン底



ボソツとした仕上がりがりながら、比重がある。新べらグルテンとのブレンドが。

いもグルテン



サツマイモの成分が独特のネバリを生み、比重がヘラを落ち着かせてくれる。

ぷにグル



抜群の軽さが特徴で、練っても使える新タイプのグルテン。洗い時こそ威力を発揮。

グルテン 21



グルテン繊維が多く含まれ、ハリ持ちが良く、待ちの釣りに効果的。

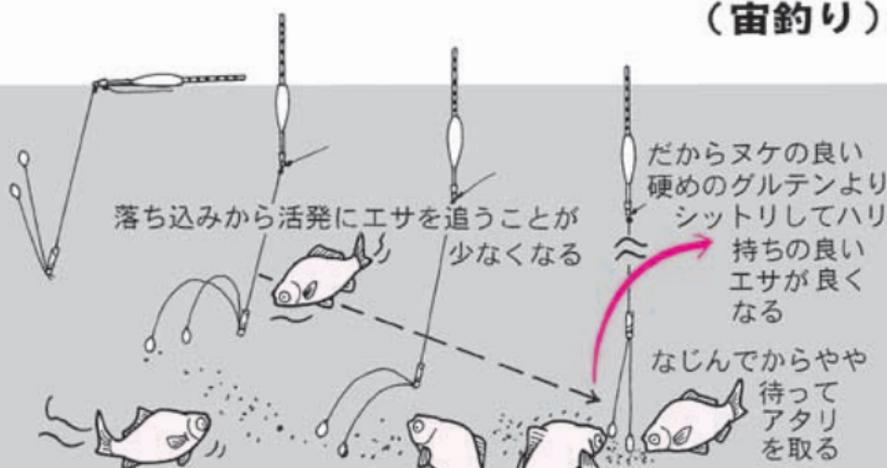
グルテン 四季



ボソツとした仕上がりが、魚を寄せせるバラケ性を生み、しかも芯残りもする。

新べらが口を使い落ち着いた時の釣り方

(宙釣り)



底釣り編

Step.1

セッティングは？

サオ = 13 ~ 21尺

状況やポイント（水深）

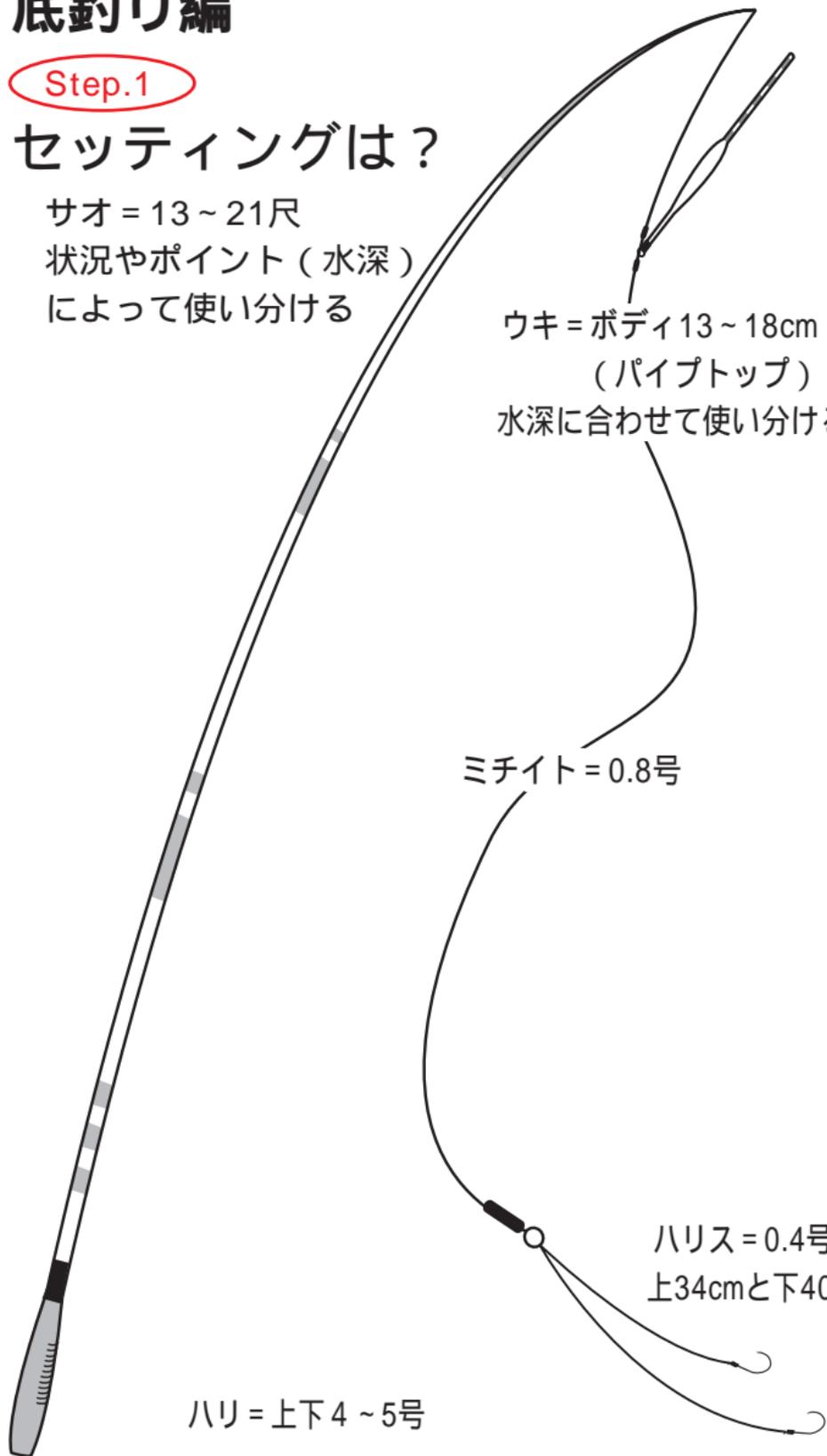
によって使い分ける

ウキ = ボディ13 ~ 18cm
(パイプトップ)
水深に合わせて使い分ける

ミチイト = 0.8号

ハリス = 0.4号
上34cmと下40cm

ハリ = 上下4 ~ 5号

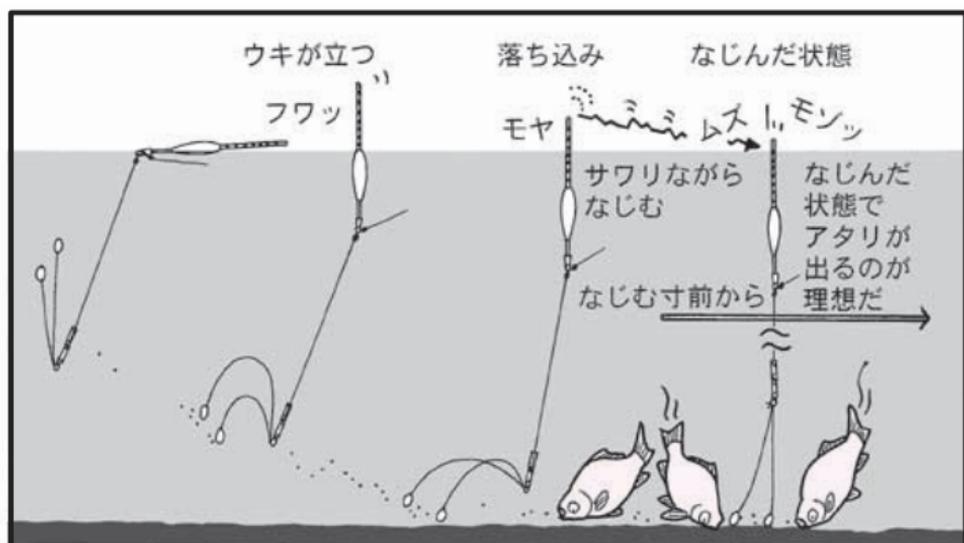


Step.2 釣り方のツボは？

これまでは新べら狙いのタナといえば1.5～2.5mの宙層か底でしたが、最近では一気に5m以上の深場に着くケースもあります。浅い場合も深い場合も底に着いている新べらを狙うわけですから、上ずらせないことがここでの急所になります。それには抜けの良いグルテンだけでなく、適度な比重があるものをブレンドします。そして、1円玉大にエサ付けをし、ウキのトップをなじませることが大事です。両グルテンで上バリトントンのタナでは、なじみ幅は1～2目盛と少なくなりますが、これをしっかり出してその中でモゾッ、フワッとした小さなアタリを狙っていきます。

Step.3 理想的なウキの動きは？

エサ落ち目盛を通過して、なじむまでに弱いサワリがでます。これを送ると、1～2目盛なじんだ直後に小さく押さえるアタリが連続する状態。これがベストです。



Step.4

新べら放流直後は...

エサに突進してくるのが放流直後の新べらです。群れの密度が増すと動きが活発なだけにエサ持ちが弱くなります。そのためグルテンを手もみで持たせようとしますが、かえってカラツンの原因にもなります。このような時は比重のあるグルテンを2～3割ブレンドして、やや硬めに仕上げてなじみ幅をだします。いかに食いが良い新べらでもトップになじみ幅がでないエサでは上ずりになってしまうので、1～2目盛のなじみ幅をだすのは底釣りで急所になるところです。底釣りのアタリは特に小さいさいので、フワフワとした動きの中からフツと押さえるアタリを見逃さないよう気をつけてください。

How to make

宙釣りで紹介した「新べらグルテン」100cc + 「新べらグルテン底」100cc + 水180cc でつくったものの他に、「新べらグルテン底」200cc + 水180cc、あるいは「ぷにグル」170cc + 「いもグルテン」30cc + 水280cc でつくったものも

効果的。ただ、ぷにグルは、例外的にもみ込んで、なじみ幅をだしていきます。



+



+



+



新べら放流直後の釣り方（底釣り）

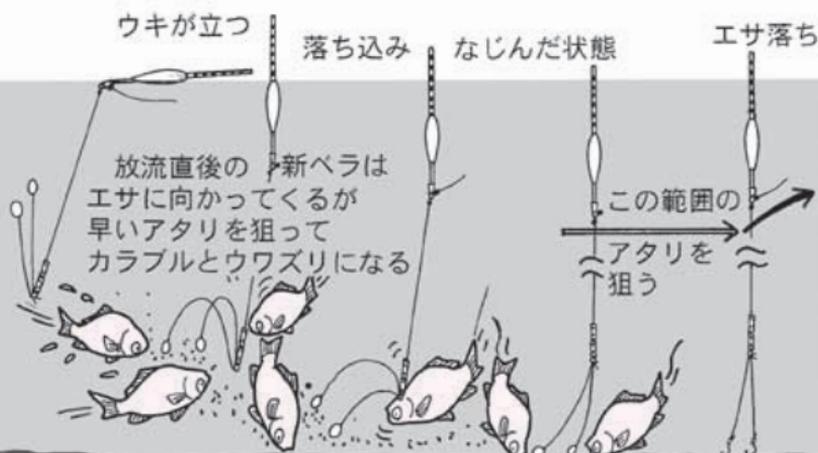
ウキが立つ

落ち込み

なじんだ状態

エサ落ち

放流直後の新べらはエサに向かってくるが早いアタリを狙ってカラブルとウワズリになる



だからヌケが良く、かつ比重のあるボソツとしたエサで回転良く攻める

Step.5

新べらが口を使い、 落ち着いたたら...

宙釣りと同様に、何回か釣られた新べらは落ち込みからガンガンアタることが少なくなります。また、このアタリを合わせてもスレが多くなるため、安定して釣るにはへらを落ち着かせることがポイント。

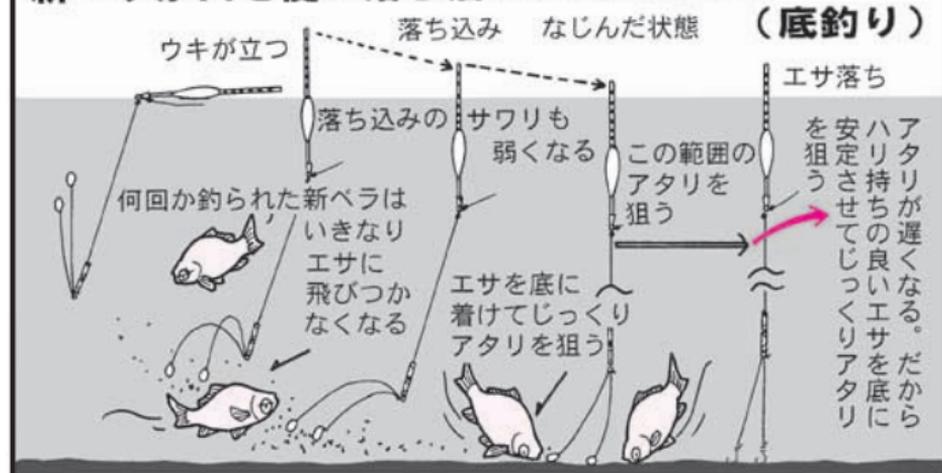
それには比重のあるグルテンを3～4割ブレンドして、しっとりしたタッチでウキの動きを押さえることが必要になります。エサ付けも角ばらせると落下途中でバラけて上ずりの原因にもなるので、ていねいに丸めてパチンコ大にエサ付けします。そして、なじみ幅をきっちりと出してトップが上がりかけてからエサ落ち目盛までの範囲でアタリを狙います。



How to make

「新べらグルテン」170cc + 「いもグルテン」30cc + 水190cc でつくったもの、「グルテン四季」100cc + 「いもグルテン」30cc + 水130cc で仕上げたものの他に、「新べらグルテン底」200cc + 水180cc、「グルテン21」60cc + 「いもグルテン」30cc + 水120cc などを使用します。いずれのエサもていねいに丸めて、なじみ幅をしっかりとします。

新べらが口を使い落ち着いた時の釣り方



最新爆釣テク

意外なエサが効く！「巨べら」

マッシュ主体ながら、グルテンと麩が配合された巨べらは、ヌケが良くてもハリにグルテン繊維が残り、適度な比重と手もみ次第であらゆる釣況に対応できるので両グルテン的使い方も可能。

サラッとつくれば強烈にバラけるエサに、手水を付けてもみ込めば、ハリ持ちバツグンのエサに変身。タナに届いてから大きく膨らむ特長があるので、大型を中心に放流している管理釣り場では大きな効果が期待できます。



How to make

エサ作りの基本は「巨べら」200ccに対して水100ccですが、「新べらグルテン」100ccを加え、水を200ccにすれば、ヌケの良さはそのままに、ハリ持ちを更に良くしたエサに仕上がります。他の両グルテンの釣り以上に寄せ負けしない両グルテンの釣りが展開できます。

新エサ情報

宙・底自由自在「いもぷに」



昨年発売されて以来、大好評の「ぷにグル」。そしてグルテンエサのベストセラー「いもグルテン」。この二つのエサのイトコ取りをしたグルテンエサが「いもぷに」です。

「ぷに」の成分により経時変化が少ない上に乾きにくく、「さつまいもマッシュ」が適度な重さをプラス。ウキをしっかりとじませてタナを安定させやすくします。「ぷにグル」よりも重く、「いもグルテン」より軽く仕上がるので宙でも底でも攻め方は自在。もちろんあの気持ちの良い手触りは健在です。

手に付きにくくサラッと仕上がるので、エサ付けのストレスも感じさせません。待つてよし、誘ってよしと、多彩な攻めをお楽しみいただけるグルテンエサ「いもぷに」。この秋、必携のグルテンエサです。 定価¥500